

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学が回復しているほか、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
設備投資	7年度は増加見込みとなっている	7年度は増加見込みとなっている	➡
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	➡
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	➡
住宅建設	弱含んでいる	弱い動きとなっている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられる事から、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、飲料やカウンターフーズに動きがみられる事から、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、園芸用品に動きがみられる事から、堅調となっている。家電大型専門店販売は、パソコンやエアコン等に動きがみられる事から、持ち直しつつある。新車販売は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 気温が下がりきらず、12月までは降雪もほとんどなかったため、コートやセーターなどの冬物衣料の動きが鈍いほか、鍋物関連や寝具等の「おこもり」需要も伸びていない。(百貨店)
- コメを中心とした食品全般の価格上昇により、売上げが前年を上回る水準で推移している。ただし、食費を抑えるために1品減らす傾向は続いており、食品の買上点数は減少傾向にある。(スーパー)
- お得感のあるキャンペーンにより、飲料や揚げ物の売れ行きがよかつた。旅行客の来訪が続いている、観光地周辺の店舗では売上げが伸長した。(コンビニエンスストア)
- 生鮮食品をはじめとする飲食料品は割安感があるため、消費者の流入が進み好調に推移している。気温の低下に伴い、保湿商品やカイロ等が活発に動いている。(ドラッグストア)
- 11月、12月は天候がよく、花苗や野菜苗に動きがみられた。また、大雪への備えから、除雪機が昨年よりも売れている。(ホームセンター)
- パソコンは一部OSサポート終了に向けた駆け込みによって10月にピークを迎え、その後も需要が続いている。エアコンは、節約志向から省エネ性能の高い商品が売れている。(家電大型専門店)
- 軽乗用車の新車種の受注が続いている、販売台数を伸ばした。自動車メーカーが生産台数を制限しているため、受注枠は短期間で埋まる傾向にある。(自動車販売店)
- 宿泊客数は徐々に回復しているものの、客層は企業等の県内団体客が中心で、個人の観光客は戻りが鈍い。(能登:温泉地)
- 新幹線延伸効果に落ち着きがみられ、関東からの宿泊客は減少している一方、関西からの客足は戻ってきており、宿泊客数はほぼ前年並みとなっている。(福井:温泉地)
- 中国の日本渡航自粛の影響で中国人観光客は落ち込んでいるが、それ以上に欧米豪からの来訪が増えており、インバウンドは引き続き増加している。(金沢:観光地)
- 和倉温泉の旅館が再開し始めたことや、応援ツアーなどの企画により、客数は徐々に戻りつつある。(能登:観光地)
- 海外旅行は、円安による旅行代金の高騰により、ヨーロッパなどの遠方よりも、近場のアジアの人気が高い。(旅行代理店)
- インバウンドが堅調に推移しているほか、国内客も戻りだしている事から、宿泊客数は前年を上回っている。また、年末は日並びがよく旅行需要が高まり、12月27日~29日はほぼ満室近くの稼働となった。(宿泊)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

化学は、大宗を占める医薬品で、回復している。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けや自動車向けで下げ止まっているほか、AIサーバー向けで増加していることなどから、全体では緩やかに持ち直しつつある。生産用機械は、繊維機械で持ち直しに向けた動きに一服感がみられるものの、半導体製造装置や金属加工機械で持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が減少していることなどから、全体では弱含んでいる。繊維は、非衣料向けが持ち直しつつあるものの、衣料向けが弱含んでいることから、全体では横ばいの状況にある。

- ジェネリック医薬品の需要の高まりが生産量・売上高増加の追い風となっている。(化学)
- スマホ向けは、北米メーカーの新モデルの売れ行きがよく、取引先のセットメーカーに増産の動きがみられ、受注が増加している。また、AIサーバー向けは、年間の販売計画を上回る水準で伸びており、長期的には更に拡大していくとみている。(電子部品・デバイス)
- 半導体製造装置は、生産水準に大きな変化はないものの、足下で生成AI需要の高まりを受けて受注が増加しており、来期に向けて増産の準備を進めている。(生産用機械)
- 内窓のリフォーム向けで製造ラインはフル稼働であるものの、建築基準法改正前の駆け込み需要の盛り上がりも乏しく、新築向けは減少している。(金属製品)
- スポーツ・アウトドア向けは海外の有名ブランド向けが好調。他方で、ファッショングループは物価高等で衣料品の需要が弱くなっている、厳しい状況。(繊維)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、低下しているものの、高水準で推移している。新規求人数、新規求職者数ともに前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。

- 生産現場で人手不足感が強いが、採用活動では完全な売り手市場となっているため、初任給の引き上げ、住宅や駐車場の手配など待遇面を強化している。(生産用機械)
- 繊維業は人気が低い上、能登では人口流出が加速しているため人手の確保が一層困難になっている。(繊維)
- 昨年から髪色やピアスなどの採用基準を緩和した成果もあり、人手不足感は以前より改善している。(小売)
- 夜勤の人材の集まりが悪く、本来であれば24時間3交代制の工場稼働を整えたいところだが、2交代制での稼働状態となっている。(化学)
- 能登の復興関係では、公費解体がおおむね終了したため、現場ニーズが解体・運搬などから大工・左官など技能職へとシフトしている。(行政機関)

■ 設備投資 「7年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが減少となるものの、金属製品、化学工業などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便などが減少となるものの、金融・保険、小売などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 自動車分野の能力増強のための新工場建設のほか、新製品生産のための設備で増加見込み。(金属製品)
- 店舗等施設の移転・増設等により、増加見込み。(金融・保険)
- 前年度の半導体増産のための新工場建設の反動により、減少見込み。(情報通信機械器具)

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 製造業では、生産用機械器具などが減益となるものの、繊維工業、金属製品などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、小売などが増益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、運輸・郵便などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 企業の景況判断 BSI は、製造業が「下降」超となっているものの、非製造業が「上昇」超となっていることから、全産業では「上昇」超となっている。なお、先行きは、全産業では8年1-3月期、8年4-6月期ともに「下降」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱い動きとなっている」

- 新設住宅着工戸数でみると、弱い動きとなっている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年を下回っている」

- 件数、負債総額ともに前年を下回っている。

■ 消費者物価 (金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (7年10月判断)	今回 (8年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
福井県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、回復しつつあり、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。